

質問

50代の主婦です。乳がんになり、半年前に乳房の全摘手術を受けました。最近、骨への転移が見つかり、抗がん剤と共にビスフォスフォネート製剤の点滴を3〜4週間に1回受けています。ビスフォスフォネート製剤を使っていると顎の骨が腐る副作用が現れると聞き、少し怖くなっています。どのような副作用があるのかを教えてください。



答え

ビスフォスフォネートは、破骨細胞(骨を溶かす細胞)の働きを抑制することによって、骨に転移したがんの進行を遅らせます。その結果、骨転移の痛みも手足のまひを和らげたり、骨折を防いだりする効果があります。骨転移が多い乳がんや前立腺が



宮本 洋二

徳島大学病院 口腔外科科長

ビスフォスフォネート製剤の副作用

顎、肺がんの患者に対して点滴がよく使われます。また、がんではありませんが、骨粗鬆症の患者に内服薬が使用されます。

骨転移の治療には非常に優れた薬ですが、まれに顎の骨が腐る副作用(ビスフォスフォネート関連顎骨壊死・顎骨骨髄炎)が出る場合があります。顎に炎症が起り、痛みと腫れ、膿が出ます。これが進むと歯肉に潰瘍ができ、顎の骨が口の中に露出します。さらに進行すると、腐った骨(腐骨)が見えるようになります。この過程で歯のぐらつきや悪臭が生じます。時に、これらの症状に先行して顎のしびれが出現することもあります。

ビスフォスフォネート関連顎骨壊死は、2003年に初めて報告された新しい疾患で、発生の仕組みや頻度、治療法はまだ十分に解明されて



口の中に露出した腐った骨 (宮本洋二科長提供)

いません。ただ、頻度はそれほど高くありません。報告によればはつきりが大きいのですが、内服薬の場合は0.01〜0.04%、注射薬の場合は0.1〜1%程度です。この頻度は歯の治療、特に抜歯や歯周外科手術などの観血的な歯科処置によって高くなります。本疾患に対する有効な治療法も、まだ確立されていません。一般的には、抗菌薬の投与と局所洗浄、合嗽(うが)いなどの保存的治療が行われますが、難治性です。最近では、やむを得ず外科切除した症例で、良好な結果が得られたとの報告がみられるよう

になってきました。徳島大学病院口腔外科でも、完全に腐骨が分離した症例に対して外科的治療を行い、良好な結果が得られています。ビスフォスフォネート製剤の使用が怖いと思っても、抜歯などの処置をあらかじめ済ませてください。

また、既にビスフォスフォネート製剤を使っている場合は、口の中を清潔に保ち口腔ケアをすることが大切です。歯科医院での定期的な口腔内管理と日々の歯磨きを含めた口腔清掃を行うことです。口腔ケアによって、ビスフォスフォネート関連顎骨壊死の発生を減少させられることが明らかになってきています。

お勧めします。ただし、注意していただきたいことがあります。まず、質問募集 がんに関する悩み

「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-0850 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ、紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター(電話088-6033)(94366)でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。

顎の骨が腐ることも